

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: LLIC (Live, Learn, and Intern in China )

派遣先大学: University of Hong Kong

卒業・修了後の就職(希望)先: 5.民間企業(業界: 消費メーカー )

**派遣先大学の概要**

香港最古の大学であり、大学評価の世界的指標である The Times Higher Education による「世界大学ランキング 2012-2013」では 35 位であり、アジア圏の大学では第 3 位である

**参加した動機**

サマースクールとインターンシップが一緒になっている点に魅力を感じた。香港の国際的な文化を体感してみたかった。

**参加の準備**

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)  
東京大学を通して申請。スムーズに進んだ。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)  
旅行会社を通してビザを申請した。一週間ほどで届いたため、特に問題なく渡航できた。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)  
特に事前に準備したものはなし。常備薬をもっていく程度。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)  
保険会社を通して加入。インターネットで申し込めるためスムーズに行えた。

⑤派遣にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)  
単位互換はいっさい行わなかった。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)  
特に準備はしなかったが、高い英語能力を求められるプログラムであったため、最初の一週間ほど慣れるのに時間がかかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど  
中国語を会話レベルで勉強しておくとうかった。香港では英語が通じたが、上海では全く通じず、何度か戸惑った。

**学習・研究について**

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)  
二週間の香港でのサマースクールと、上海での七週間のインターンシップが合わさったプログラム。半分が香港大学の学生で、残りの半分がイギリスとアメリカの大学から学生。東京大学からは自分を含めて二人参加した。インターンシップでは、上海の自動車会社にて、国際部にて、海外への新しい事業を進めるにあたっての市場調査を行った。

②学習・研究面でのアドバイス  
中国のビジネス、経済史に関わる授業。そこまで詳しい内容でなく、わかりやすいものが多かった。中国、香港の現代での消費者行動について知ることができた。

③語学面での苦勞・アドバイス等  
母語が英語の参加学生が多く、英語をつかって議論、仕事をこなすことを求められるため、高い英語能力が必要。

**生活について**

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)  
香港では大学の寮、上海では香港大学提供のホテルに滞在した。設備などよく、立地も悪くなかった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)  
香港、上海とともに湿度、気温が高かった。大学周辺の治安はよく、貴重品の管理に気をつければ特に問題なく過ごすことができた。食事は油っこい物が多く、意識して野菜をとるよう努めた。クレジットカードのキャッシングを利用し、一度に多くのお金をもたないようにした。

③危機管理関係(派遣先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)  
上海で一度風邪をひいたが、睡眠をよくとり二、三日でなおった。ただ、空気がきれいではなく、長時間外にいと、のどに違和感を感じることもあったため、内外での過ごし方、水分補給には意識して生活した。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃 60000

食費 80000

娯楽、交通費 30000

授業料、教科書代なし

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学からの奨学金、そして香港大学からは寮とホテルを提供された。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末にはプログラムの学生とともに数時間内にある都市を訪れることが多かった。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

香港大学のプログラム担当者の対応が速やかで、上海での生活がスムーズにいった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

施設の冷暖房設備はとても整っていた。WiFi もパスワードがなくかつ早く、使い勝手が良かった。食堂は価格帯がおさえられており、中国料理を中心に、多くのメニューが用意されていた。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他派遣を通じての所感

アメリカやイギリスの名門大学からの参加者とともに勉強、業務を行う中で多くの刺激を受けた。アメリカの学生はプレゼンの能力が高く、非常に勉強になった。インターンを通して、マーケティングに一層興味をもったものの、どういった商品のためのマーケティングをするか、注意して考える必要があることを学び、現在は消費材を扱う企業に目を向けている。毎日朝6時に起きて仕事に向かう生活も最初は苦しかったが、途中からは慣れることができた。総じて実りある良い経験となった。

②参加後の予定

日本へ帰国、二年二学期を開始予定。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

サマースクール、インターンシップを同時に経験できるプログラムです。学期中に行われるプログラムですが、機会があれば是非申請していただければと思います。東京大学の担当の方、どうもありがとうございました。

その他

①準備段階や派遣期間中に役に立ったウェブサイト・出版物  
特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい派遣期間中の写真があれば添付してください。



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: LLIC 派遣先大学: 香港大学(授業) 上海(インターン)

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体  
5.民間企業(業界: ) 6.起業 7.その他( 未定 )

派遣先大学の概要

香港大学: 授業などはすべて英語で行われ、学生も多様でレベルが高かった。  
ただし、食堂などでは英語ができないスタッフも若干いた。

参加した動機

日本以外でインターンをする機会が魅力的であり、また、中国語を勉強していたので。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)  
エッセイと英語による面接があった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)  
香港の学生ビザ(香港大学に必要書類を提出すればかわりにやってくれる)  
中国観光ビザ(事前に1か月のものを日本でとり、現地で1か月の延長を申請する。)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)  
特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)  
安いものをネットで探して買った。

⑤派遣にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)  
休学していた。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)  
初めての留学だったので、英語には苦労した。上海では中国語しか通じない場所が多かったので、中国語の勉強を  
事前にしておいてよかったと思った。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど  
水着(香港で海水浴ができるので)

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)  
香港大学での授業は、基本的に予習、復習はなくても大丈夫だった。  
上海でのインターンは会社による。会社が選べないのが個人的に残念だった。

②学習・研究面でのアドバイス  
特になし

③語学面での苦労・アドバイス等  
英語をとにかく鍛えておいたほうがいい。  
上海では簡単な中国語会話ができると生活が楽になる。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)  
香港では学生寮、上海ではホテルをルームシェアした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)  
そんなに東京と変わらないが、やはり東京に比べれば特に上海では汚い印象をもつひともいるかもしれない。(個人的には平気だったが。)タクシーが安く、特に上海ではシェアすれば地下鉄と同じ水準の値段になることも。

③危機管理関係(派遣先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)  
上海も香港も安全な都市なので、特に問題はない。ただし、上海から郊外に出ると、日本人が嫌いな中国人にも出会うことがあった。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)  
宿泊と香港—上海間の飛行機代はプログラムが負担してくれた。その他は自己負担だが、奨学金があったので、そんなに負担にはならなかった。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)  
プログラム参加者は全員 14 万円いただいた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)  
週末はほかの留学生や香港大学の学生と観光をした。

#### 派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)  
香港にいるときは、現地学生がサポートしてくれるので、特に困ったことがなかった。  
上海ではビザ延長のサポートがずさんだったので苦労した。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)  
食堂が近くにあり、便利だった。

#### プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他派遣を通じての所感  
中国内での移動を伴うため、ビザ等の準備は若干面倒だったが、授業、インターンなど様々な経験ができるので、学ぶことはとても多かった。ただ、インターン先を選ぶ自由は基本的にはないため、上海ではインターンを楽しんでいた学生と気に入っていない学生に二極化していた印象もある。

②参加後の予定  
復学

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス  
もし時間があれば、積極的な参加をお勧めする。

#### その他

①準備段階や派遣期間中に役に立ったウェブサイト・出版物  
中国大使館サイト(ビザ関係)

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい派遣期間中の写真があれば添付してください。